

挑戦する人だけが見える世界がある

映画「写真甲子園」、撮影順調にスタート

全国の高校生写真部の代表が出演して東川で写真を競う写真甲子園が、いよいよ映画になります。その名も「映画『写真甲子園』」(シネボイス製作)。7月22日、農村環境改善センターで製作発表会を行い、撮影も本格スタートしました。来年3月には完成、同4月に完成披露試写会、同年10月に道内先行ロードショー、2018年1月全国ロードショーを予定しています。

物語は、高校写真部員の夢叶(ゆめか)、翔太、大輝、絢香ら6人を中心に展開します。写真甲子園の本戦大会に出場を果たした東京都、大阪から来た2校2チームの6人が、大会出場と写真撮影を通して成長する姿を描きます。

監督・脚本は、

デビュー作「ぼくらの七日間戦争」

(1988年制作)でブルーリボン賞

作品賞などを受賞した札幌出身の菅原

浩志監督。撮影はすでに同月上旬から

順調にスタートを切っており、この日

は菅原監督と、俳優の秋野暢子さん、

河相我聞さん、そして写真甲子園に出

場する高校生役の笠菜月さん、白波瀬



写真甲子園記者発表会(農村環境改善センター中庭)

海来さん、中田青渚さん、中川梨花さん、甲斐翔真さん、萩原利久さんが出席しました。主題歌は、しばらくの活動休止を経て再開後、初の映画主題歌を担当

で審査委員長を務めている写真家の立木義浩さん(東京在住)、同じく審査員を務めている同、竹田津美さん(東川町在住)も登場します。

「挑戦することのでひと皮もふた皮もかける特別な体験を

菅原監督は「写真甲子園は特別な高

校生が経験できる特別な体験。挑戦した人だけが見える世界がある、ということをお話してくれる」と話します。

「挑戦することのでひと皮もふた皮もむけるんだということ、そして挑戦する人だけが見える、人生が変わるほどの素晴らしい経験があるんだ、ということを描きたい」と映画に込める思いを話しています。

「写真甲子園は、22年間で今まで千人の高校生が決戦大会まで来ることが出来た。一方で、応募したけれど来れなかった高校生は、全国に2万人もいます。」

かつてここに来ることが出来た彼らが写真甲子園で経験できたこと、そして来ることが出来なかった彼らには、体験できなかった写真甲子園を一緒に体験してもらえ。

そして今まで写真甲子園を知らなかった人も、一緒に体験することで『君たちは若者として無限の挑戦の可



明日からの撮影開始を前に乾杯=東京と大阪の2校の高校生役で抜擢された6人(農村環境改善センター中庭)=

能性を持っているんだ」ということを訴えたい。

発表会の席上、大阪の高校写真部顧問役で出演する秋野暢子さんは「全力を尽くします」、東京の高校写真部顧問役、河相我聞さんは「明日からクラック・インということで、(高校生役の)彼らと一緒に良い作品が出来るように頑張りたい」とそれぞれ抱負を語りました。

東京チームの高校生役、甲斐翔真さんは「撮影に入る前に、3日間カメラで撮影して実際に作品にしてみました。自分たちの写真が実際に使われたりしているのを見てください」、大阪の高校生役、笠菜月さんはまだ練習中の大阪弁で「練習中なんやけど、ほんまにめっちゃいい作品にしたい」と熱意を見せていました。